

ストレングス視点の実践ガイド：強みを「資源」に変える支援技術

弱みではなく、できることを「足場」にする。組織的運用のためのロードマップ

対象：障害福祉サービス従事者 / 管理者 / サービス管理責任者

NotebookLM

エグゼクティブ・サマリー：
なぜ今、視点の転換が必要なのか



課題中心の限界

「できないこと」への着目は自己効力感を下げ、支援の行き詰まり（スタッフの疲弊・利用者の意欲低下）を招く。



再現性のある「強み」

強みとは褒め言葉ではなく、課題解決のための「資源」である。観察→記録→目標化のプロセスで運用する。

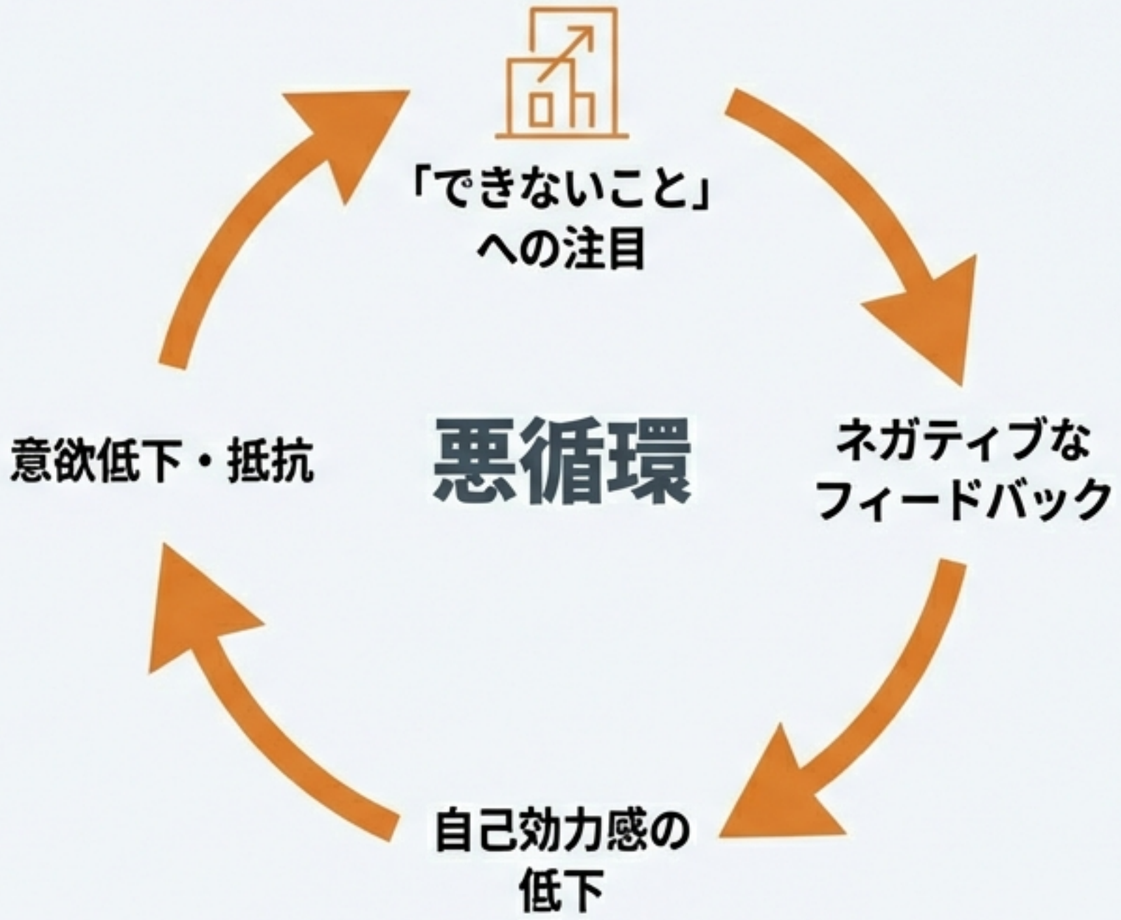


組織と個人への変化

利用者の自律性が高まり、スタッフは具体的な支援提案が可能になる。

NotebookLM

なぜ、課題中心の支援は行き詰まるのか？



Insight: 遅刻や欠席などの課題だけを指摘し続けると、本人は「何をやっても自分は不十分だ」と感じ、防衛的になる。

NotebookLM

強みとは「褒め言葉」ではなく「支援資源」である

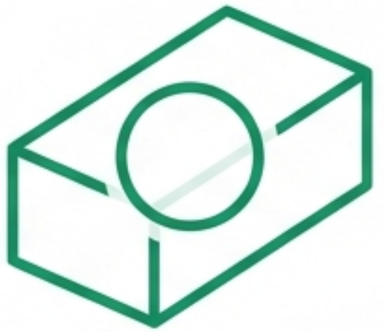
抽象的な評価（×）



「彼は優しい」

主観的で、道具として使えない。

具体的な行動（○）



「困っている仲間に手順を説明した」

客観的で、再現可能な行動。

定義: 我々が探しているのは、性格の良し悪しではなく、支援の足場となる「再現可能な成功行動」である。

NotebookLM

強みの発見：3つの観察軸を持つ

01

継続性（Continuity）



何が達成できたかではなく、何が続いているか。

02

工夫（Ingenuity）



本人が自発的に行った調整や独自の方法。

03

影響力（Influence）



周囲の環境や他者に与えた良い影響。

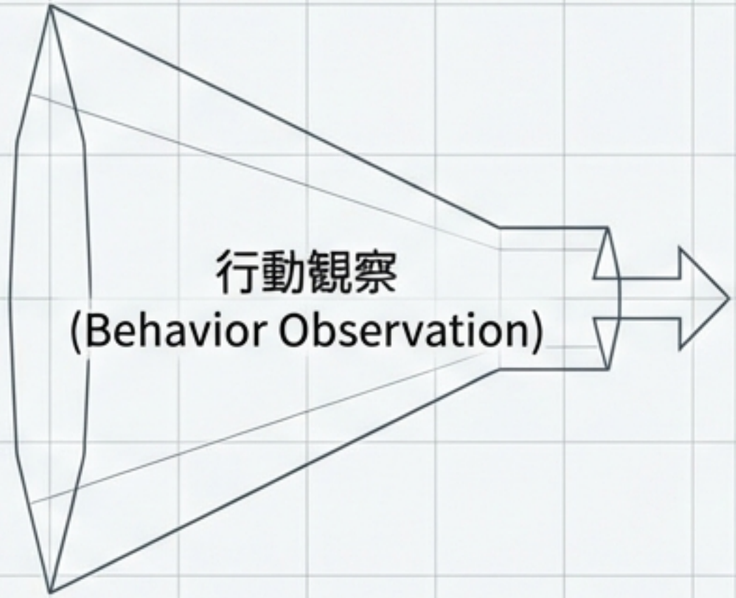
Pro Tip: 課題が大きいケースほど、「できたこと」ではなく「続けられていること」に目を向ける。

NotebookLM

記録の技術：抽象語を「行動」に翻訳する

「真面目な性格である」

抽象的 (Abstract)



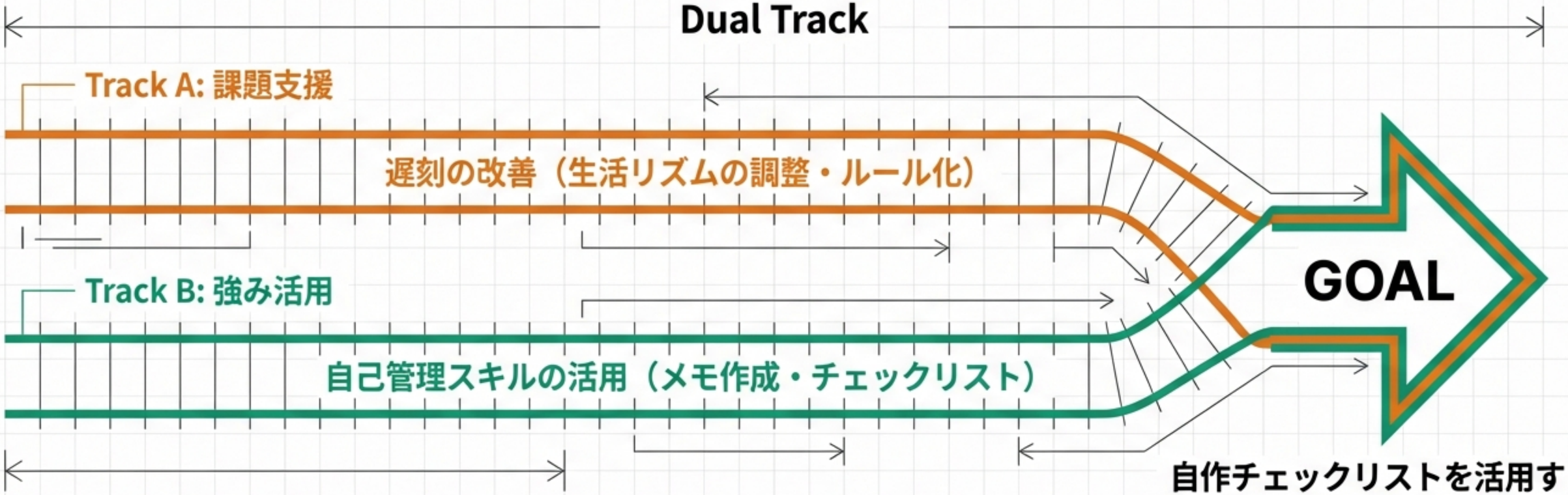
「新しい作業の手順メモを自作し、開始前に3回確認した」

具体的行動 (Actionable)

Action: 業務日誌に「強み観察欄」を設け、1日1行の記録から始める（Small Start）。

NotebookLM

目標化：課題支援と強み活用を「並走」させる



自作チェックリストを活用する（強み）ことで、前夜に準備を完了させる（遅刻対策）。

Action: 業務日誌に「強み観察欄」を設け、1日1行の記録から始める（Small Start）。

NotebookLM

会議での共有：視点を組織に定着させる



ルール (Rule)

週次会議で、少なくとも1件は「強み起点の支援案」を議論する。

フォーマット (Format)

単なる報告ではなく、「何がうまくいったか」とその「要因（なぜ）」をセットで共有する。

効果 (Benefit)

問題点ばかりを議論する会議はスタッフを疲弊させる。強みの共有はチームのメンタルヘルス管理としても機能する。

NotebookLM

本人へのフィードバック：事実を伝えて自己効力感を育てる



DON'T:「すごかったね」「えらいね」

抽象的な賞賛は「評価」として伝わる。

DO:「混乱した場面で、自分でメモを見直して作業に戻れましたね」

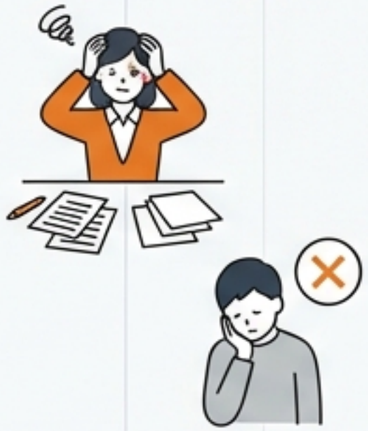
事実を鏡のように映し出す。

目的: 本人が自分の「成功パターン」を認識し、それを再現できるようにする。

NotebookLM

事例：F事業所における導入前後の変化

導入前（Before）

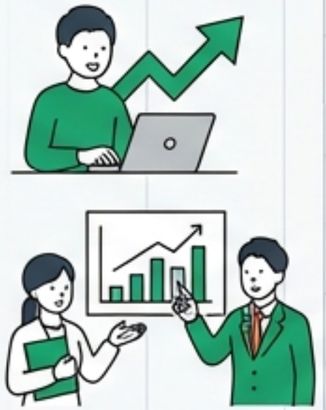


- スタッフは問題行動の対応に追われ疲弊
- 利用者は受動的で、支援に対してネガティブ

導入後（After）

Action Taken
日誌に強み欄を追加、会議の固定議題化

- 利用者の作業継続率が向上
- スタッフの提案が具体的かつ前向きに変化



成功要因

強みを精神論ではなく、システム（記録・会議）として導入したこと。



NotebookLM

運用の質を保つ5つのチェックポイント

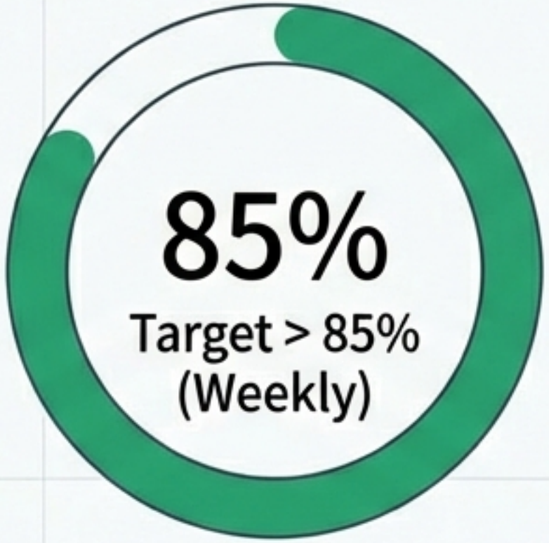
☑	行動レベルで記録されているか（Recording）
☑	支援計画に反映されているか（Planning）
☑	課題支援とのバランスは適切か（Balance）
☑	本人へ強みを伝えているか（Feedback）
☑	会議で共有時間が確保されているか（Sharing）

目的：本人が自分の「成功パターン」を認識し、それを再現できるようにする。

NotebookLM

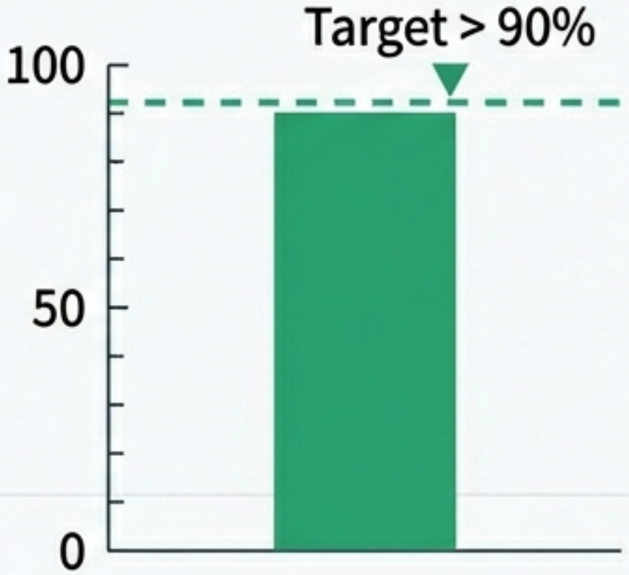
成果の見える化：評価指標（KPI）の設定

強み記録率



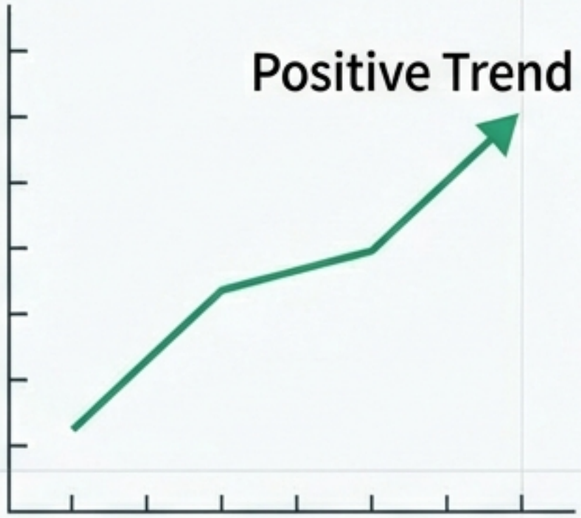
Target > 85%
(Weekly)

強み反映率



Target > 90%
(Monthly)

自己効力感向上率



Positive Trend
(Interview Analysis)

NotebookLM

よくある失敗と回避策

	失敗1: 「優しい」などの抽象語で終わる。		必ず「行動」に翻訳するルールを徹底する。
	失敗2: 課題を見なくなる（現実逃避）。		課題と強みの並走（デュアルトラック）を前提とする。
	失敗3: 一時的なキャンペーンで終わる。		様式（フォーマット）と会議議題に物理的に組み込む。

NotebookLM

現場からの疑問・質問（FAQ）

Q:「強みが見つからない場合は？」

A:「できたこと」ではなく「続けられていること」を探してください。継続自体が資源です。

Q:「課題の大きいケースでも有効ですか？」

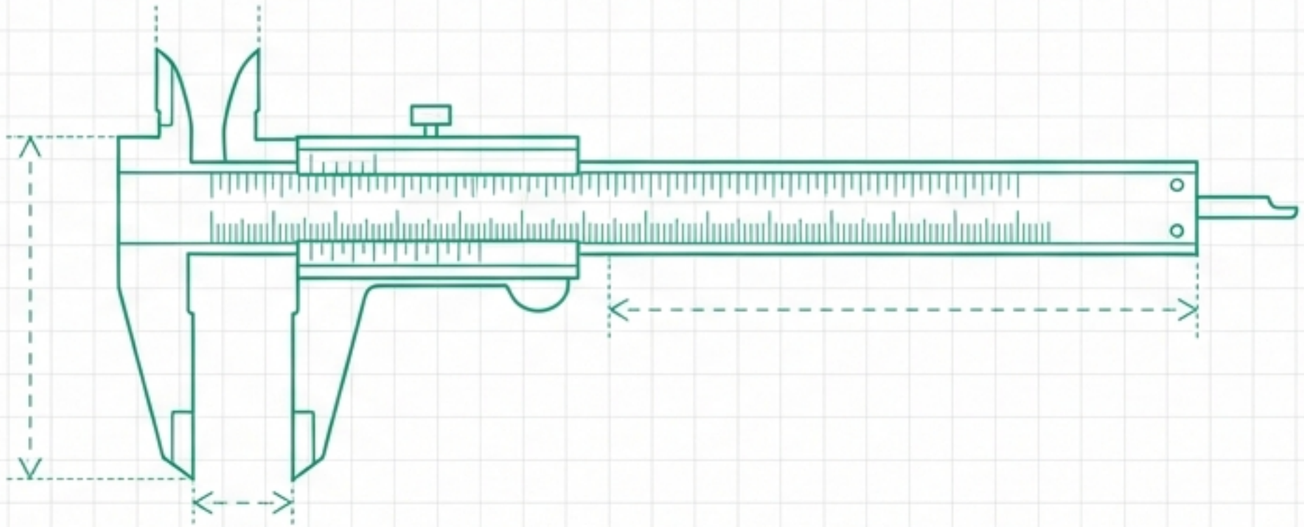
A: 有効です。課題が大きいほど、信頼関係構築の「入り口」として強みを使う意義があります。

Q:「本人が自分の強みを否定する時は？」

A: 説得せず、事実（ビデオ判定のように）を伝えるだけに留め、認識の変化をを待ちます。

NotebookLM

強みとは、その人らしさを守る最強の「道具」



強みに注目することは、本人を甘やかすことではありません。
それは支援の精度を上げ、本人が自律的に生きていくための「武器」を渡すことです。

Action: まずは今日の日誌に1行、「できたこと」ではなく「続けられた行動」を記録することから始めてください。

NotebookLM